

# 2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立精華中学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月9日

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒は、人のため・学校のため・地域のためにできることはないかと考え活動を工夫している。</li> <li>一堂に会することは難しかったが、学校・保護者・地域が互いに連携協力できるように、今後も各学校の情報を共有する。</li> <li>小規模校の良さを活かしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味をもったことを探究したり、思いを実現させようと主体的に行動したりする姿が増えてきている。</li> <li>自分の考えを持ち、積極的に話したり書いたりするなど、自己表現力の育成に引続き取り組む。</li> <li>地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども</li> <li>自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども</li> </ul>
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。</li> <li>「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。</li> <li>「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。</li> </ul>

## III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで行動する生徒の育成</li> <li>地域の一員として、地域の行事に積極的に参加する生徒の育成</li> </ul>	めざす子ども像	1年	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している。	日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。	生活や社会をよりよくするために、相手の立場も思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
学校教育目標		2・3年	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。
現状	研究	テーマ	共に学び合い・深め合い・高め合う ～ 生徒も、教職員も、一丸となって～		
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>素直であり、校内・地域でのボランティア活動にも積極的に参加している。</li> <li>体育大会や文化祭等の行事では主体的に活動できる。日常的なボランティア活動や授業等も自ら進んで考え行動する主体性が育ちつつある。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペア・グループを活用して、生徒どうして「わからない」が言え、学び合いができつつあるが、思考を広げたり深めたりすることがなかなかできない。</li> <li>自分の考えや理由を書くことはできつつあるが、うまく表現できない。</li> <li>自ら考え学ぶ授業を、生徒と教師で創り上げるように取り組みつつある。</li> </ul>	内容等	生徒も、教職員も、一丸となって、対話を通じて授業や行事を創り上げる。			
	めざす授業の姿	課題に対して、自ら進んで考え、仲間とともに、自分の考えを深めたり広げたりして、協働的に課題を解決していく、一人も残らず学ぶ授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立精華中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	「主体的な学び」の授業づくりを進めて、学ぶ意欲と学力を向上させる。	★	継続	主体的、協働的に学ぶことができる授業をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いの出し方を工夫したり、話し合いの目的を明確にしたりして、意味のある交流時間にする。</li> <li>・スタディサプリを活用して、主体的に学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で友だちの考えを聞いたり友だちと話し合ったりすることが楽しい生徒90%以上</li> <li>・家でもスタディサプリを活用して自分の学習の補充を行っている生徒60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員で互いに授業公開や授業参観をすることで授業改善(課題解決・発見型学習)を図った。(生徒91.8%)</li> <li>・スタディサプリの学校と家庭での使用促進を図った。(生徒53.2%)</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動をより活性化させるため、国語科の授業での話し合いの型を他授業や他活動につなげる。</li> <li>・授業の中で、スタディサプリを使用し、必要な学習を自分で選んで使用することを一緒にやってみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「議論の型」を統一し、自分の意見を言うことや友達の意見を聞き、さらに深堀りすることを、各授業やSEIKAタイムで日常的に取り入れた。(生徒93.4%)</li> <li>・各授業で取り入れた「スタサブ通信」の発行、家庭での使用の促進を行った。(生徒58.5%)</li> </ul>	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論の目的を明確にし、話し合うことで達成感が生まれるような場を授業の中でつくっていく。</li> <li>・家庭でのスタサブ使用の促進のため、スタサブ通信の作成と、それによる使用状況を生徒に積極的に発信していく。</li> </ul>
			継続	読書活動に積極的に取り組む生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がおすすめの本を紹介する。</li> <li>・図書委員会の取組みを充実させる。</li> <li>・読書郵便を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が好きな生徒80%以上</li> <li>・自分の意思で学校図書館を利用したことがある生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の常時開館や、POPやビブリオバトルでの本紹介をした。(生徒80.4%)</li> <li>・学校図書館の様々な利用目的の紹介をした。(生徒80.4%)</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝と昼の読書の充実と、図書委員会を中心とした取組を継続する。</li> <li>・授業の様々な場面で、学校図書館にある本を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会を中心として学級文庫を継続している。校内研修で「読書が好きになったきっかけ」の共有と、生徒への発信をした。(生徒75.2%)</li> <li>・授業の様々な場面で本に載っていることを基に話を進めたり、内容を紹介したりした。(生徒73.4%)</li> </ul>	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書をすることの楽しさ」や「そこから得られるもの」の共有を教員が積極的に行う。</li> <li>・学校図書館を安心して利用できるような環境を整えとともに、本の活用を継続する。</li> </ul>
2	教職員の資質・能力の向上を図る	★	継続	生徒が主体的に自分の言葉で表現する場を設ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材理解、生徒理解に基づく教材研究を行い、PDCAサイクルで授業実践する。</li> <li>・対話に基づく受講奨励を活用し、教員が主体的に研修に参加できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもが自ら学ぶ」授業づくりにあてる時間がある教員80%以上</li> <li>・研修により新しい発見があったり、取組を見直したりした教員100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修で互いの授業改善について共有し、議論する時間を持った。(教職員66.7%)</li> <li>・授業公開で積極的にフィードバックをし、授業参観で得た学びを積極的に自分の授業に取り入れた。(教職員88.9%)</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修として国語科の授業を参観することで、全職員が共通意識を持ち、表現力を高めるための指導ができるようにする。</li> <li>・授業公開と参観、積極的なフィードバックと議論する時間を持つことを継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修で共有した国語科の授業モデルをもとに、表現する場や他の考えを踏まえて再考する場を授業に取り入れた。(教職員66.7%)</li> <li>・授業公開と参観を行うとともに、他の授業者から学んだことを授業づくりに活かした。(教職員100%)</li> </ul>	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上や生徒主体の取組を踏まえ、精選できる行事や校務分掌・取組を再考し、授業づくりにあてる時間の確保に努める。</li> <li>・対外的な研修参加を奨励し、研修内容の校内への還元を図るとともに、授業公開を継続し校内で学ぶ場を設ける。</li> </ul>

2	生徒の自己肯定感を高める	継続	生活習慣を確立し、自分から進んで行動する生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内でボランティア活動の機会をつくったり、地域の活動を紹介し参加を促していく。</li> <li>・生徒主体の学校行事、委員会活動、係活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアに参加した生徒 80%以上</li> <li>・やりがいや達成感を感じている生徒 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に二度の校内ボランティアの実施、校外のボランティアへの参加の呼びかけを行った。(生徒 49.5%)</li> <li>・生徒主体での体育大会や修学旅行等を計画・実施した。(生徒 85.4%)</li> </ul>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部で校内ボランティアの計画の作成・実施、ボランティアに参加した生徒の感想等を共有する。</li> <li>・後期の行事や委員会活動等においても、生徒主体の活動を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア実施の早めの周知と、ボランティアを通して学んだこと等のスピーチを実施した。また、写真一言コメント等を掲示した。(生徒 49.4%)</li> <li>・生徒と教員が一丸となって共に創り上げていき、生徒が一番良い形で輝けるよう、また自己有用感等を持てるよう支援した。(生徒 87.3%)</li> </ul>	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒朝会の場で、ボランティアのスピーチを今年度あと2回行い、ボランティアを通して身に着くことを共有する。</li> <li>・生徒が行うことと教員が行うことの区別をつけ、1つ1つの行事や活動を丁寧に行う。また、委員会活動をより良い形で行えるよう支援する。</li> </ul>
---	--------------	----	------------------------------	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。